

平成 29 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

■ 事業報告

以下、事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

(1) 地域の現状と課題について

青葉台連合自治会・青葉台地区福祉協議会のエリアを青葉台地域ケアプラザと当ケアプラザが協力して地域の課題等について共有している。
この地域は、以前から自治会や社会福祉協議会、民生委員児童委員、老人会など様々な団体が活発に行われており、共通する活動については2つのケアプラザが日頃から連携を取り情報共有を行っている。
担当エリアの高齢化率は平成 29 年 9 月 30 日現在 20.0%となっている。高齢化が年々進んでいくエリアのため、介護予防や閉じこもり防止などに役立つプログラムをケアプラザ内で開催すると共に、地域にも出向いて活動を行ってきた。また、このエリアには小学校が2校、中学校が1校と児童数も他のエリアよりも多い。将来に向けて、学校との連携も活発に行うと共に、地域に住む子育て中の親や未就学児童を対象にした活動も行い、次世代に向けての継承者を育てる事業を行った。また、デイサービスなど高齢者向けの施設であるという印象が地域に定着しがちであるが、ファミリー層や子供たちにも目を向け参加できる場づくりと全世代の為の地域の活動の場である事を継続的に地域にアピールしていく事が出来る仕組みを構築していく取り組みを行った。

(2) 相談（高齢者・こども・障害者分野等の情報提供）

[高齢者]

包括3職種が区役所と連携をとり、どのような相談にも継続して対応できるよう、分科会や連絡会、包括カンファレンス、その他研修会などへ参加し、スキルアップを図った。また、虐待や成年後見人、認知症などの周知や啓発活動も積極的に行った。

[こども]

区の子ども家庭支援課や子育て支援拠点「ラフル」との連携を図り、子育てに関する情報の提供を行った。相談内容に応じて専門機関や担当者へ引継ぎ、ワンストップの相談体制をとるよう心がけた。障がい・子どもに関する専門機関とも（教育機関、地域活動ホーム、生活支援センター）連携し、きめ細かく個人のニーズに対応できる体制づくりを行うことができた。

[障害者]

地域活動ホーム「ステップ」や青葉区生活支援センター「ほっとサロン青葉」
青葉区障がい者後見的支援室「ほっぷ」横浜市中途障害者地域活動センター「青葉の風」などと連携をとった。

(3) 各事業の連携

前年度に引き続き、地域包括支援センターと地域活動交流部門が連携し、講座毎にケアプラザの機能などについて啓蒙していくことができた。
各事業を通して、包括・地域交流・介護保険事業（居宅介護支援・通所介護）の連携をとり、個別の課題、地域の課題について、定例会議の場で情報共有をしていくことができた。明らかとなった課題を抽出し、支援に結び付けていく。
また、住民の健康状態や一人暮らしの方の生活状況を会話の中で情報収集し、長期欠席者などには専門職から連絡を取るなど適宜対応していくことができた。

(4) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

地域包括支援センター・地域活動交流・通所介護・居宅介護支援の4つの事業実施にあたり、それぞれの基準に則り、資格及び人員を配置している。また、28年度から横浜市が配置した生活支援コーディネーターも加わり、包括支援センター3職種・地域活動交流コーディネーターと合わせて、5職種連携で事業に取り組める体制づくりができた。
職員の育成は一人一人がプロとして自信をもって職務を遂行できるように、常勤非常勤を問わず、外部研修に積極的に参加させ、個人のスキルアップを図るとともに外部研修に参加した職員には報告を義務付け、所内研修での情報の共有化を図った。特に新任の職員には、すぐ実践で役立つ基礎知識や実務に関する外部研修を受講させている。
毎月行われる法人内研修にも、積極的に参加した。

(5) 地域福祉保健のネットワーク構築

青葉台地区社会福祉協議会理事会や、かがやく青葉台推進会議に出席し、地域の関連団体や機関との情報交換を積極的に行うことができた。また、包括エリア内の学校や、地域の行事にも積極的に参加し、地域諸団体との交流や顔の見える関係づくりを行った。
地域福祉保健計画地区別計画の推進では、3ヶ月に1回支えあいネットワーク（平成29年度から協議体としての位置づけ）を開催し、地域の代表者や行政と共に、情報共有と課題解決に向けての活動を行った。また、地域の様々な行事に参加し顔の見える関係作りも積極的に行った。

(6) 区行政との協働

青葉区地域福祉保健計画第3期目標を踏まえ、ケアプラザが地域の福祉保健の拠点施設としての役割を職員一人一人が認識し活動及び地域支援を行った。また、区役所、区社会福祉協議会とも連携し、子供から高齢者まで幅広い年齢層に対しケアプラザに興味を持っていただき、活動に参加するなど、ケアプラザ全体として事業に取り組むことができた。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

講座実施前に包括の職員と連携してケアプラザの周知、包括の役割など地域の方への挨拶と同時に周知活動を行った。また、講座終了後アンケート、ヒアリングなど振り返りを行うことで、より地域にそった活動になるよう改善をしながら進めた。
定年高齢者（男性）を対象にした「いきいきセミナー」修了者の活動は1期から5期までそれぞれ継続活動がなされており、当ケアプラザの主幹となったボランティア活動人材である。各団体も高齢化が進み会員が減少傾向にある点が問題にあがり、広報紙での呼びかけや、活動の紹介、また体験会をケアプラザが協力して行った結果、新規会員を各期で募ることができた。各期定員を満たし、新たな担い手の育成にもつながっている。
男性のマス（団体）のみならず、女性のマス（団体）が積極的に参加できる仕組みを意識

して、読み語り、地域のランチを担う会、子ども食堂他活動を通して仲間づくりを行った。区との協働で「ニコピカ歯磨き教室」、ヘルスメイト協働で子ども、高齢者向けの「食育講座」など専門機関との連携を大切に、優先的に取り入れて行った。青葉区社協後援の日本赤十字社共催事業の積極的に取り入れている。今年は救急員資格取得講座を開講して2年目になる。28年度の受講生も含め年度内に「防災」をテーマに別途復習のため勉強会と交流会を行った。自治会にも積極的に声をかけ地域の防災活動促進に寄与し、介護職、幼保学校などの教職員へも周知した。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

貸館の予約状況は、3ヶ月先まで予約表を明示し、即時更新している。空き情報の発信と夜間帯での利用をPRしている。夜間と土日の有効活用も活発化している。高齢者、若年層で団体化したいグループには丁寧に説明を行い、「子ども食堂」や「青葉中高生ミュージカル」などの子育て支援活動には通年の取り組みが円滑にできるよう、配慮している。地域の新しい人材の発掘につなぐべく「多世代・異世代交流」へと発展する企画を盛り込んでケアプラザの周知を行い利用につながるような啓蒙を行っている。貸館の空き部屋を有効利用し昼食スペース、学習スペース、トイレや授乳、クールビスのとして「居場所」も行った。また、

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

包括エリア内全ての小中学校で児童・生徒を対象に、認知症サポーター養成講座を当ケアプラザ職員と民生委員、社協や他ケアプラ職員、学校教職員と連携して行った。「ボランティア感謝会」、「自主事業報告会」の開催で「ボランティア間とケアプラザ」また、「ボランティア同士」の横の繋がりを大切に育むことができた。顔が見える関係づくりにより、「秋祭り」や「福祉祭り」のような地域の大きな行事には縦割りで参加していたただき、「遣り甲斐」、「仲間意識」をもって活躍する姿が見られた。毎週行われる子育て支援、季節ごとに行う学習支援のボランティアも充足した。今年初めて行った、地区社協の「ハロウィンまつり」や12か所のプラザで共催した「青葉カノン」の活動に携わる団体を育成し、当日のボランティア活動への参加にも多くの方が協力した形になった。子育て支援の場やデイサービスでボランティア活動コーディネートも行った。子どもを見守るボランティアの育成に力を注ぎ、学習支援や読み語りを支えるボランティア団体が発足、継続した活動展開が始まった。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

ケアプラザの紹介パンフレットや「包括支援センター」についてのしおりを作成し継続して配架している。各種講座の冒頭でケアプラザの役割や包括支援センターの所在の啓蒙を強化し、ケアプラザの活動の情報がより伝わるよう努力した。「広報紙ひろば」は毎月発行し、利用団体のリアルタイムな活動報告や次月活動日を明記。予約が入れやすいシステムへ繋げた。団体取材して懇親し、活動の様子や会員募集の記事作成。回覧、プラザ内の紹介コーナーで掲示し協働しながら工夫を行った。デイサービスや居宅支援、包括支援センターの役割が伝わる誌面をつくり、「協力医のコラム」、「健康に関わる情報」の発信も行った。回覧板でも目にひくよう、誌面はカラー刷りとデザイン力UPで問合せ件数の増加に繋がった。広報紙、チラシを定期的に各自治会へ回覧・配布・掲示物として依頼し、区役所はじめ社協などで閲覧できるよう情報提供をしている。ケアプラザの周知拡大のため、回覧版と併用し毎月「区報」を活用し、新しい人材の確保に結びついている。エリアの幼保小中学校の余暇の前には親子や子供向け講座の企画に盛り込み、その情報を「学校ひろば」と称し子供や子育て世代の保護者向けに継続発信している。ケアプラザの自主事業、デイサービスの様子や講座風景をリアルタイムにブログに掲載し、その様子を広く伝達する努力を行った。部屋利用団体活動の紹介の常設、各活動団体の作品の常設を行っている。自主活動団体の意欲の向上と新規会員の募集にも助力をし力を入れて行った。

地域の行事に職員が連携して積極的に参加をした。結果、地域の情報の収集や顔の繋がりに通じた。

「認知症サポーター養成講座」をきっかけに福祉体験、デイサービスご利用者様との交流会なども積極的に行われた。

民生児童委員、学校コーディネーターとの交流と情報共有を行い、顔の見える関係づくりを行っている。

運営協議会のメンバー他、区や社協職員を招き、年に2回に「食事会」を行った。多年に渡り地域貢献をしている、さつきが丘地域ケアプラザの自主活動団体の活動の様子と情報の共有、意見交換の場を設けることができた。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

人口規模や支援体制の異なる5つの自治会単位で個別に支援目標を設定している。包括会議（所長+5職種）以外にも4者会議（所長・主任ケアマネジャー・地域交流CO・生活支援CO）を開催し、日常的な情報交換と共有が出来るようにした。所内全体で連携をはかり、事業を円滑に進めた。

青葉台地域ケアプラザと協力して協議体や生活支援体制づくりを行った。ケアプラザエリア内の小地域支援でも、区役所・区社協のアドバイスを受けつつ情報共有を行った。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

区と包括のカンファレンスで、個別ケースの課題や支援体制についての情報収集を行った。またケアプラザの事業や地域ケア会議において、地域住民の生活ニーズや課題の把握を行った。情報は、地域支援記録や議事録等により所内で情報共有した。

ケアプラザに関わる住民主体の地域活動について、リスト化し市に提出した。加えてコミュニティーハウス、自治会館等での住民活動について、情報収集しデータ化を進めた。生活支援サービスについては、活用できる情報化を検討し進めている。

地域資源の情報をプラザ内で共有した。広報誌「ひろば」を活用し、地域住民が集う場や、包括カンファレンスなどで介護サービス事業所等にも、定期的に情報提供を行った。介護認定を受けている方も介護予防の活動に参加しており、関係機関との連携を図った。

(3) 連携・協議の場

包括エリアには、民児協を中心とした見守り連絡会、自治会単位の4者会議、自治会・民児協・老人会・保健活動推進員会・商店会の各会合へ積極的に参加した。昨年度より小地域での協議体開催を支援しており、しらとり台第5地区での協議体が第1地区との協力により「いちごの会」に発展した。いちごの会はコグニサイズやベーゴマ等の伝承遊びをメニューに取り入れ、地域の高齢者のみならず、子どもから高齢者まで世代を超えて楽しめる「多世代交流」の場へと発展した。来年度は定期的な開催の準備を進めていく。

また、青葉台地区地域福祉保健計画の中の地域像を地域住民と共有し、その目標の実現に向けた連携・協議の場「青葉台地区支えあいネットワーク」を今年度から協議体として運営し、地域の人材発掘の場としての方向付けができるところまで到達した。

連合自治会エリアの青葉台地区支えあいネットワークや、自治会エリアのしらとり台自治会・いちごのかいを通じて、地域住民が安全安心に暮らしていくための仕組みづくりや活動の支援を行った。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

青葉区全体の地域特性や課題について、区の連絡会や区役所・区社協とのチーム会議などを通じて情報共有を行った。特に「青葉台地区ゆるやかな見守りネットワーク(仮称)」を立案し、青葉台地域ケアプラザとともに「準備グループ」として、青葉台連合自治会エリアの住民と地域の課題と解決策を考えていただけるよう、情報提供を行った。来年度は、谷本地区、荏田地区の活動と歩調を合わせ、見守りの目を地域へと広げるべく、担当圏域との共通性を捉え、広域の課題解決に向けた取り組みを行っている。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

配食、移送、自費ヘルパーなどのインフォーマル情報は、社会福祉士分科会で、定期的に情報の更新管理を行っている。

地域のサロン(多世代交流カフェ含む)、老人会、元気づくりステーション、ふれあい広場(地区社協主催)、ケアプラザで開催される活動等において、地域包括支援センターが地域の身近な相談窓口であることの周知を行った。

包括カンファレンスでは、民生児童委員とケアマネジャー・サービス事業者(通所系のサービス事業所)との相互理解の場づくりを開催し、ネットワーク構築を推進した。毎月開催の、青葉台南部民児協の会合において、冒頭の時間を頂き、情報提供・意見交換を行ない、顔の見える関係づくりに取り組んでいる。

② 実態把握

社会福祉協議会や区役所と連携し、年1回程度地区アセスメントを行っている。包括エリア地域ケア会議で、参加者への情報提供・意見交換を行った。

相談以外に来所された住民やサービス事業者と積極的にコミュニケーションをとり、地域や利用動向等の情報の把握を積極的に行っている。

月1回活動している、ボランティア主体の「はなみづき」の配食を支援し、独居高齢者等の安否確認を連携しながら行っている。

③ 総合相談支援

包括3職種で相談票の管理を通じて、情報共有に努めており、迅速かつ継続的な支援体制を構築している。

個々事情が異なる相談に的確に対応できるように、社会資源の情報収集を行い、必要に応じて、相談ニーズに合ったサービスや機関等を紹介できるようにしている。また介護予防事業の普及にも力を入れている。

継続支援ケースについては包括3職種で情報共有し、連携してフォローしている。対応困難事例、虐待事例については、速やかに区に報告し、情報を共有するとともに、連携して、継続的な支援につなげている。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

成年後見サポートネットワークに参加し、専門職や市民後見人との意見交換や、専門職として意識・知識の向上に努めている。また最新の消費者被害情報を住民が集まる場をとらえて、周知に努めている。

エンディングノートの書き方講座（もえぎ野と共催・年1回）を通して、成年後見制度の普及啓発を行った。

高齢者が集う場に出向き、制度の話に適宜行っている。

区長申立てにつなげた事例はなかったが、そうした相談が来た場合には、迅速に対応できるように体制は整えている。

社会福祉士が中心となって、相談ケースの支援を行っている。3職種で連携し相談ケースの共有をしている。相談の際には、必要な資料一式を提供するとともに、手続きや制度における留意点について説明を行っている。

② 高齢者虐待への対応

虐待事例については、速やかに区に報告し、情報を共有するとともに、連携して、継続的な支援につなげている。

区や関係機関と連携し、ネットワークミーティングの開催支援を行っている。

ケースの継続支援・終了などの判断は、適宜区や関係機関と相談しながらネットワークミーティング等で判断を行っている。

虐待を予防する観点から、介護者のつどいなどで介護者支援を行っている。

包括虐待チームに社会福祉士が所属し、ケアマネジャーや介護保険サービス事業所へ虐待についての研修を行った。

③ 認知症

民生委員、保健活動推進員、エリア内の小中学校（計3校）、地域住民、訪問介護事業所のヘルパーを対象に認知症サポーター養成講座を開催した。

区の認知症支援者連絡会に出席し、認知症支援のネットワークづくりを検討し、認知症になっても安心して生活できる地域づくりを目指し、キャラバンメイトなど地域で活躍する関係者との意見交換を行い、活動支援を行った。

個別レベルの地域ケア会議でも、認知症の方の地域生活継続を取り上げ、地域の体制づくりについて検討を進めている。

民児協の定例会をケアプラザで実施している。定例会の時間を毎回いただき、地域情報の共有や、民生委員の活動の支援となるような情報提供を行うなど、情報連絡体制だけでなく、認知症の疑いのある人の相談等にも力を入れている。

「介護者サポートほっとあおば」やキャラバンメイトの協力のもと、介護者のつどいを年10回開催した。男性介護者が多いのが特徴である。それぞれの体験や工夫したこと、悩みなどを共有できる場として参加者が定着しつつあり、引き続き介護者支援を推進していく。

認知症カフェ（多世代交流カフェ）をエリア内で2か所開催した。一昨年度から開催しているしらとりcafé・今年度からつつじcaféをスタートした。各年10回開催し、地域に身近にある、気軽に立ち寄れる場所づくりを目指し来年度も継続していく。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

① 地域住民、関係機関等との連携推進支援

年9回開催の包括カンファレンスで意見交換の場を設けている。また、事業所に月1回程度訪問し、ヒアリングを実施している。

広報紙を活用し、包括カンファレンスで介護サービス事業所等にも定期的に情報提供を行っている。

関係機関やボランティアと連携を図り、介護認定を受けている方も、参加しやすいような配慮をしている。地域ケア会議で、これらの課題を検討した。

小学校で開催した認知症サポーター養成講座に、地域で活躍するケアマネジャーが講師として参加した。児童やその親世代がケアマネジャーの役割を知るきっかけとなった。また、地域住民の集まる場で、介護保険制度に関する講話を行い、周知を図った。

ケアマネジャーと民生委員の連携をテーマにしたカンファレンスを年1回開催している。地域密着型サービスが開催する運営推進会議が、円滑に開催していけるよう、通所介護事業所との意見交換を行い、周知を図った。

② 医療・介護の連携推進支援

医療と介護の連携をテーマとしたカンファレンスを年2回開催した。

① 認知症初期集中支援チーム

② 急性期から慢性期、訪問診療までを行っている医療機関の医師や看護師・医療ソーシャルワーカーとの意見交換を行った。

エリア内にある医療機関（医師・歯科医師・薬剤師）を、年1～3回訪問し、顔の見える関係づくりの構築に努めた。訪問時に個別ケースの相談をされる機関もあった。

在宅医療連携拠点と、個別のケースにおいて連携を取った。事例検討会や多職種連携会議、市民向け講演会などの情報を地域住民やケアマネジャーに情報提供を行った。顔の見える関係づくり会議に出席し、事例検討会や勉強会の連携・協力を行った

③ ケアマネジャー支援

電話や窓口においてケアマネジャーからの相談対応を3職種が協力して行っている。エリア内の居宅介護事業所へ月1回以上訪問するなど相談支援を行っている。担当者会議の開催支援やファシリテートの役割を担い相談しやすい関係を構築している。

① 医療と介護の連携のツールについてアンケートを行った。訪問看護連絡会で分析をし、課題抽出を行う。

② 事業所訪問などで得た情報をもとに事例検討会の企画を行った。

③ ケアマネジャーと個別地域ケア会議の振り返りを行った。

（包括カンファレンスにて）

④ 新任 CM への研修や実習の支援（2名/年）を行った。

個別実習では、地域資源や障害や児童の分野にも触れるような研修とした。

1) ほっとサロンあおば・青葉の風の見学

2) 小学校で開催した認知症サポーター養成講座の見学・講話など

ケアマネジャーが地域の中で、どのような活動が出来るかをテーマに実習を行った。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

個別ケース地域ケア会議とエリア会議を年3回開催。医師や看護師、リハビリ職に出席してもらい医療的な観点からの意見をもとに課題の検討する事が出来た。地域住民や介護保険サービス事業所の資質向上と今後の支援の参考となる連携体制を構築する事が出来た。

次回の地域ケア会議のケース選定において、振り返りしたことを踏まえ、課題解決に向けた連携・協働の準備と調整を実施した。地域ケア会議での内容を、ケアマネジャーとともに情報・意見交換を行っている。

自治会関係者・老人会・民生委員などが出席する、運営協議会の後の時間をいただき、会議が開催できている。積み重ねてきた個別ケースの課題をもとに、地域での共通の課題を抽出し検討していく。残された課題についての問題解決機能として地域での中核的な役割を担っている。

(5) 介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

介護予防ケアマネジメント（指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業）

日々の相談業務・モニタリング・担当者会議等を丁寧かつ適切に行いご本人ご家族の要望をききつつ、自立や強みを生かした支援・計画に取り組んでいる。3職種による、対象者へのコンサルテーション、方針の確認を随時行っている。要支援者自立者の介護予防を目指した在宅生活を目指し、計画を整えている。

担当者会議、運営推進会議、地域ケア会議、介護予防従事者研修など様々な機会をとらえ関係者や対象者に、地域情報・課題を周知している。広報誌やチラシにインフォーマル情報わかりやすく掲載し、ケアマネジャーがプラン作成時に生かせるよう心掛けている

包括エリアでの介護予防従事者研修を開催し、介護予防支援事業に関わる情報提供を行っている。地域包括支援センターが、ケアマネジャーにとって身近な相談機関であることを周知し、信頼のできる関係性を構築していく。地域ケア会議の報告をケアマネジャーに実施し、地域理解を深められるような場を企画した。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

「いつまでも自分で動ける身体づくり」を目指し、アクティブセルフケア13回、栄養講座「さつき食堂」4回を開催した。コグニサイズを取り入れ地域住民に発信した。住民の集う場に出張し、口腔・栄養・体操などを取り入れた介護予防講座を高齢者が集う場（かえでの会など）において、健康知識の普及と定着を目指し取り組んだ。

介護予防や健康に関する情報は、協力医と協議して広報誌などの媒体を活用し、住民への周知と情報提供をおこなった。

住民が集う場で開催する各講座にて、健康教育とともに啓発普及（口腔ケア・栄養・運動についてなど）を計画実施している。

一昨年実施の、介護予防普及啓発事業「のびのび体操クラブ」が「アクティブセルフケア」となり、講師・参加者が自主的に活動を行うことが出来た。「朝活体操（土曜朝月2回）」については、ボランティア講師の支援を継続的に行った。2つの自立したグループは、今後も支援していく。

3つの元気づくりステーションは、区とも連携しながら、ボランティアの運営・活動支援を継続している。

5 その他

--

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

7 施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

基本協定書に基づき、指定管理者として適切な建物及び設備の維持管理を行った。経年劣化によりフグ絵画生ずる設備が増えてきている。施設を利用される方たちへの安全の確保を優先し、専門業者による定期的な点検や、不具合については区と事前協議を行い改善に取り組むことが出来た。

また、職員による日々の点検・清掃を行い屋内外の良好な環境を維持し、利用する方々が気持ちよく安全・安心・清潔な施設を利用していただけるように保守管理を行った。内部だけでなく、外から見ても不快感を与えることのないように、植木の手入れや雑草取り、落ち葉・枯葉の清掃を、業者での剪定と職員での一斉作業により美化活動に取り組むことが出来た。

(2) 効率的な運営への取組について

法人の基本理念に則り、公益性・公共性を重視した運営と、地域包括ケアシステムの推進の為に、行政機関・医療機関・薬局・介護保険事業所などや自治会・地域住民・ご利用者及びその家族など関係者と連携をとり、前年度に引き続き質の高いサービスを提供することができた。

ゴミ処理については、徹底したゴミの分別やリサイクルを行った。また、節電・節水など省エネに努め、ムリ・ムダ・ムラのない効率的な運営を職員の協力により行う事ができた。

業務については、見直しを行い、効率の良い勤務体制を作っていた。また、ボランティアの発掘と育成についても、支えあいネットワークと連携し、継続した活動ができるように協力や提言を行っている。

(3) 苦情受付体制について

当法人作成の「苦情対応マニュアル」を基に、苦情相談窓口の文書を玄関に掲示し、その中に責任者名・担当者名・第三者委員名を明記するほか、横浜市の「ご意見ダイヤル」のポスターを貼り出すなど、意見が言いやすい環境づくりを心がけている。

些細な苦情といえども、迅速で適切な対応を行い、誠意をもって対応するようにした。介護保険事業については、重要事項説明書に担当者名を記載するとともに、区役所と神奈川県国民健康保険団体連合の所在地と電話番号を記載し、公的機関に対しても苦情申出等ができることを説明している。

また、ご意見箱を事務所から離れた所に設置することで、匿名希望の方からの意見も聞きやすい環境を作っている。

(4) 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

当法人作成の「緊急時対応マニュアル」を基に、適切な対応を行う。

防犯対策として、夜間の時間帯は必ず2名の職員が勤務し、閉館時は警備会社による機械警備を行う。またパソコンにはすべてセキュリティーキーをつけ、盗難に備える。またパスワードの設定を徹底するなどの対策を怠らないようにした。

防災対策として、避難訓練を2か月に1回デイサービスの利用者に加え、貸館の利用者にも参加してもらい、火災の場合の避難や地震の時の対応などを行う。また、防災拠点や自治会の防災訓練にも参加することができた。特別避難場所（福祉避難場所）に指定されている施設として、応急備蓄品の適正な管理を行い、緊急連絡網による連絡体制を徹底させる。

(5) 事故防止への取組について

当法人作成の「事故対応マニュアル」の周知と研修の実施により、事故を起こさないよう常に注意を呼びかけ、また事故が起きてしまった場合には、速やかに対応し、青葉区役所や横浜市への報告も行う。

ヒヤリハットが起きた時には、全員の共通課題として取り組み、原因についての検証と今後の改善策を話し合う。

デイサービス送迎で使用する車両に、今年度末にドライブレコーダーを設置した。この装置は、自動車保険会社が提供している装置で、日ごろの車輛運転状況も（急ハンドル、急加速、急減速といった項目で、ネット上でいつ、どこで、どの車が、何をしたといった情報を得ることが出来る。日頃事務連絡車として使用している軽自動車には設置していないが、運転状況報告を職員で共有し車輛安全運行にも、施設全体で取り組んでいく。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

年度初めには、常勤・非常勤を問わず、職員全員に対し個人情報保護に関する研修を行い「個人情報保護に関する誓約書」に署名をもらい、横浜市長に提出した。中途採用の職員も同様に、その都度行うとともに、常に緊張感を持って個人情報に接するよう注意を促している。

法人としても法人内研修で個人情報保護に関する研修を行いケアプラザのみでなく法人全体で個人情報保護に心がけた。

「個人情報取扱規程」の基づき、漏洩防止・保護に努めた。

個人情報保護方針・個人情報問い合わせ担当者などを決めて、玄関に掲示している。

(7) 情報公開への取組について

法人のホームページとブログを有効に活用するとともに、広報紙を毎月発行し、自治会へ回覧すると共にケアプラザ内での広報活動、区役所や青葉区社会福祉協議会に設置されているケアプラザ用チラシラックも活用し地域に情報提供を行った。また、近隣の学校向け広報紙を作成し、年に数回学校に協力いただき、生徒への配布をお願いしている。

区報への情報掲載、横浜市や青葉区などの公的機関のホームページの活用や、介護サービス情報の公表を更新するなど、地域の多くの方にケアプラザを知っていただこう広報活動に努めている。

事業計画書・事業報告書・予算書・決算書などを、いつでも誰でも見られるようにファイルして、受付カウンターの横に設置し閲覧可能としている。

一法人としてではなく、公的機関の一員であるという責任の重さを職員が自覚し、情報公開の取り組みを行っている。

(8) 人権啓発への取組について

地域住民すべてが、住み慣れた地域社会において幸福な生活が営めるように人間として当然に持っている固有の権利を行使できるように支援している。
ケアプラザが、地域住民へ啓発活動を続けていき、虐待や消費者被害などについて、包括カンファレンスや地域の老人会サロン等の場を活用し周知を行った。
次年度も、エンディングノートについても、専門職による地域住民向け講座を行っていく。

(9) 環境等への配慮及び取組について

節電・節水等を職員一人一人が心がけている。
エアコンの室温設定温度は、夏は28度、冬は20度を目安にし、照明も明るさをそれほど必要としない場所の蛍光灯は数を間引くなど節電対策を行っている。また、館内に、節電を呼びかけるチラシを掲示し、利用者にも趣旨を理解していただき協力をお願いしている。26年度に災害用の非常電源の確保事業で屋上に太陽光蓄電池が設置された。微量であるが非常用逐電装置からでた電気を動力系統で活用し、建物全体の電気量の軽減も役立てていく。

ごみの分別については、公共施設としてのゴミのルート回収に参加し、分別の徹底（紙類・燃やすごみ・金属・プラスチック・ペットボトル等21種類に分類）や減量化、リサイクルの促進に努めている。ペットボトルのキャップやプリンターのカートリッジは回収ボックスへ、牛乳パック・空き缶・ペットボトルなどはデイサービスで行うゲームや工作の材料として使用するよう工夫し再資源化に取り組んだ。
印刷物の裏紙は、積極的に所内容プリント用紙やメモ用紙として活用ゴミの軽減化に努める。

【介護保険事業】

●指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤 兼務）
 保健師 1名（常勤 専従）
 社会福祉士 1名（常勤 専従）
 主任ケアマネジャー 1名（常勤 兼務）
 プランナー 1名（非常勤 専従）

《目標に対する成果等》

日々の相談業務・モニタリング・担当者会議等を丁寧かつ適切に行いご本人ご家族の要望をききつつ、自立や強みを生かした支援・計画に取り組んでいる。3職種による、対象者へのコンサルテーション、方針の確認を随時行っている。要支援者自立者の介護予防を目指した在宅生活を目指し、計画を整えている。

担当者会議、運営推進会議、地域ケア会議、介護予防従事者研修など様々な機会をとらえ関係者や対象者に、地域情報・課題を周知している。広報誌やチラシにインフォーマル情報わかりやすく掲載し、ケアマネジャーがプラン作成時に生かせるよう心掛けている

包括エリアでの介護予防従事者研修を開催し、介護予防支援事業に関わる情報提供を行っている。地域包括支援センターが、ケアマネジャーにとって身近な相談機関であることを周知し、信頼のできる関係性を構築していく。地域ケア会議の報告をケアマネジャーに実施し、地域理解を深められるような場を企画した。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

-
-
-

《その他（特徴的な取組、PR等）》

担当制により、3職種の専門性を生かし、チームとして利用者に対応し、必要に応じて連携を取りながら支援を行っていく。また、地域の社会資源やインフォーマルサービス等を組み合わせたプランの作成を積極的にすすめていく。

包括エリアでの介護予防従事者研修を開催し、介護予防支援事業に関わる情報提供を行っている。地域包括支援センターが、ケアマネジャーにとって身近な相談機関であることを周知し、信頼のできる関係性を構築していく。地域ケア会議の報告をケアマネジャーに実施し、地域理解を深められるような場を企画した。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
102	105	104	107	104	118
10月	11月	12月	1月	2月	3月
111	120	117	115	115	116

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 送迎
- 健康状態の観察
- 昼食・おやつ
- 生活指導・相談
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

●	1割負担分	2割負担分
(要介護1)	704円	1,406円
(要介護2)	831円	1,661円
(要介護3)	963円	1,925円
(要介護4)	1,095円	2,189円
(要介護5)	1,227円	2,452円

別途

(入浴加算/サービス提供体制強化加算Ⅱ/個別機能訓練加算Ⅰ/処遇改善加算Ⅰ)

- 食費負担 750円

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務）
生活相談員	5名（常勤兼務）
看護師/機能訓練指導員	3名（常勤2名・非常勤1名）
介護職員	12名（常勤1名・非常勤11名）
調理員	6名（常勤1名・非常勤5名）
運転手	4名（非常勤4名）

《目標に対する成果等》

通所介護計画書に沿って、個人の目標現実・ADL・IADL 現実維持に向けたサービスを提供した。また、機能訓練計画書に沿った個別機能訓練を実施する事ができた。また、医療面のリスクの高いご利用者様をお受けする事ができた。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

入浴されない方への足浴を実施し、セルフケア不足を補うために爪切り等を行い利用者様のご希望に沿うケアを行った。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
710	748	759	755	715	730
10月	11月	12月	1月	2月	3月
705	715	657	585	630	732

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《提供するサービス内容》

- 送迎
- 健康状態の観察
- 昼食・おやつ
- 生活指導・相談
- 入浴

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

●	1割負担分	2割負担分
（事業対象者）	1,766円/週1回	3,513円/週1回
（事業対象者）	3,621円/週2回	7,241円/週2回
（要支援1）	1,766円/月	3,513円/月
（要支援2）	3,621円/月	7,241円/月
別途（運動器機能向上加算/サービス提供体制強化加算1. 2）		
●食費負担	750円	

《事業実施日数》 週 6 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

管理者	1名（常勤兼務）
生活指導員	5名（常勤兼務）
看護師/機能訓練指導員	3名（常勤2名 非常勤1名）
介護職員	12名（常勤1名 非常勤11名）
調理員	6名（常勤1名 非常勤5名）
運転手	4名（非常勤4名）

《目標に対する成果等》

介護予防通所介護計画書に沿って、個人の目標現実に向けたサービスを提供できた。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

ホットパック、メドマーを使用し、筋肉の動きを和らげ全身の機能を向上させ転倒予防、筋力維持に努めた。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
19	21	20	17	17	17
10月	11月	12月	1月	2月	3月
16	12	12	11	11	11

平成29年度「横浜市さつきが丘地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)〈地域活動〉

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	14,085,509	2,951,414	17,036,923	17,036,923	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業	0		0	1,811,872	△ 1,811,872	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料金収入	0		0	0	0	
その他(指定管理料充当)	0		0	0	0	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	3,990,000		3,990,000	3,990,000	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	372,811		372,811	372,811	0	
収入合計	18,448,320	2,951,414	21,399,734	23,211,606	△ 1,811,872	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	8,354,000	0	8,354,000	9,929,133	△ 1,575,133	
本俸	6,000,000		6,000,000	7,120,849	△ 1,120,849	地域活動コーディネーター、サブコーディネーター人件費
社会保険料	550,000		550,000	615,282	△ 65,282	
手当計	1,700,000		1,700,000	2,116,682	△ 416,682	
健康診断費	0		0	0	0	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	78,300		78,300	76,320	1,980	
その他	25,700		25,700	0	25,700	
事務費	1,660,000	0	1,660,000	1,802,832	△ 142,832	
旅費	100,000		100,000	127,337	△ 27,337	ガソリン代、会議交通費
消耗品費	400,000		400,000	359,280	40,720	事務消耗品
会議諸費	0		0	0	0	
印刷製本費	150,000		150,000	156,966	△ 6,966	コピー用紙、封筒など
通信費	350,000		350,000	233,376	116,624	切手、電話代など
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	220,000		220,000	182,145	37,855	ガス釜、電子ピアノ、ガスコンロなど
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	40,000		40,000	49,141	△ 9,141	施設賠償責任保険、秋祭り行事保険
職員等研修費	50,000		50,000	23,432	26,568	研修交通費、参加費
振込手数料	0		0	0	0	
リース料	300,000		300,000	334,596	△ 34,596	玄関マット、カーテンリース代
手数料	50,000		50,000	3,342	46,658	地域交流事業に係り出金支払手数料
地域協力費	0		0	0	0	
その他	0		0	333,217	△ 333,217	福利厚生費、職員ユニフォーム、渉外費、会議費
事業費	292,000	0	292,000	709,288	△ 417,288	
運営協議会経費	42,000		42,000	42,200	△ 200	運営協議会にかかる費用
指定管理料充当 事業	250,000		250,000	667,088	△ 417,088	
管理費	7,474,000	3,048,000	10,522,000	9,205,888	1,316,112	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算-指定額
光熱水費	3,000,000	0	3,000,000	3,051,310	△ 51,310	
電気料金	1,200,000		1,200,000	1,251,310	△ 51,310	
ガス料金	800,000		800,000	800,000	0	
水道料金	1,000,000		1,000,000	1,000,000	0	
清掃費	1,000,000		1,000,000	969,920	30,080	清掃業務委託費
修繕費	474,000	3,048,000	3,522,000	3,425,414	96,586	温水ボイラー、自動ドア、非常灯など修繕費
機械整備費	100,000		100,000	41,009	58,991	機械整備費
設備保全費	2,900,000	0	2,900,000	811,030	2,088,970	
空調衛生設備保守	600,000		600,000	536,083	63,917	空調設備保守
消防設備保守	50,000		50,000	38,224	11,776	消防設備保守
電気設備保守	100,000		100,000	74,272	25,728	電気設備保守
害虫駆除清掃保守	50,000		50,000	35,358	14,642	害虫駆除保守
駐車場設備保全費	250,000		250,000	0	250,000	
その他保全費	1,850,000		1,850,000	127,093	1,722,907	
共益費	0		0	0	0	
その他	0		0	907,205	△ 907,205	
公租公課	668,320	0	668,320	794,330	△ 126,010	
事業所税			0	0	0	この列は入力しない
消費税	668,320		668,320	794,330	△ 126,010	
印紙税			0	0	0	この列は入力しない
その他()			0	0	0	この列は入力しない
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	この列は入力しない
本部分			0	0	0	この列は入力しない
当該施設分			0	0	0	この列は入力しない
二一三対応費			0	0	0	この列は入力しない
支出合計	18,448,320	3,048,000	21,496,320	22,441,471	△ 945,151	
差引	0	△ 96,586	△ 96,586	770,135	△ 866,721	

自主事業費収入	250,000		250,000	0	250,000	予算-指定管理料に含む
自主事業費支出	250,000		250,000	667,088	△ 417,088	
自主事業収支	0	0	0	△ 667,088	667,088	⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費
管理許可・目的外使用許可収入	0		0	0	0	0 駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0	0	0	0 使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0		0	0	0	

**平成29年度「横浜市さつきが丘地域家プラザ(施設名)」
収支予算書及び報告書(特別会計)<包括・介護予防・生活支援体制整備>**

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,336,000	△ 193,676	23,142,324	23,142,324	0	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000	151,000	0	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000	△ 1,902,722	3,886,278	3,886,278	0	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	この列は入力しない
指定管理料充当事業(包括)	0		0	0	0	
指定管理料充当事業(介護予防)	0		0	0	0	
指定管理料充当事業(生活支援)	0		0	0	0	
自主事業収入			0	0	0	この列は入力しない
雑入	0	0	0	0	0	
印刷代	0		0	0	0	
自動販売機手数料	0		0	0	0	
駐車場利用料収入	0		0	0	0	
その他(指定管理充当分)	0		0	0	0	
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	29,276,000	△ 2,096,398	27,179,602	27,179,602	0	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	24,260,000	0	24,260,000	22,831,931	1,428,069	
本俸	12,000,000		12,000,000	11,703,483	296,517	包括3職種、生活支援コーディネーター人件費
社会保険料	3,000,000		3,000,000	2,912,506	87,494	
手当計	8,500,000		8,500,000	7,863,492	636,508	
健康診断費	0		0	0	0	
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	372,000		372,000	352,450	19,550	
その他	388,000		388,000	0	388,000	
事務費	1,600,000	0	1,600,000	2,341,297	△ 741,297	
旅費	120,000		120,000	111,682	8,318	ガソリン代、会議交通費
消耗品費	200,000		200,000	197,173	2,827	事務用品、ソフトウェア使用料、包括講座使用消耗品
会議諸い費	0		0	0	0	
印刷製本費	720,000		720,000	711,194	8,806	紙、インク代
通信費	400,000		400,000	395,489	4,511	電話、切手代
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	0		0	0	0	
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	0		0	0	0	
職員等研修費	100,000		100,000	92,962	7,038	研修交通費
振込手数料	0		0	0	0	
リース料	60,000		60,000	528,456	△ 468,456	カーテンリース料、サーバーリース料
手数料	0		0	12,485	△ 12,485	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	0		0	291,856	△ 291,856	福利厚生、被服(ユニフォーム)、車両、保険料、諸会費
事業費	1,290,000	0	1,290,000	704,007	585,993	
協力医	630,000		630,000	462,000	168,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	200,000		200,000	23,165	176,835	
指定管理料充当事業(介護予防)	151,000		151,000	177,450	△ 26,450	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	41,392	267,608	予算:指定額
管理費	2,126,000	0	2,126,000	1,636,897	489,103	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算:指定額
光熱水費	1,000,000	0	1,000,000	811,107	188,893	
電気料金	400,000		400,000	324,442	75,558	
ガス料金	300,000		300,000	243,332	56,668	
水道料金	300,000		300,000	243,333	56,667	
清掃費	300,000		300,000	257,825	42,175	清掃委託費
修繕費	126,000		126,000	100,324	25,676	温水ボイラー、自動ドア、非常灯など修繕費
機械警備費	100,000		100,000	10,900	89,100	機械警備費
設備保全費	600,000	0	600,000	215,587	384,413	
空調衛生設備保守	150,000		150,000	142,503	7,497	空調設備保守
消防設備保守	10,160		10,160	10,160	0	消防設備保守
電気設備保守	20,000		20,000	19,742	258	電気設備保守
害虫駆除清掃保守	10,000		10,000	9,398	602	害虫駆除保守
駐車場設備保全費	60,000		60,000	0	60,000	
その他保全費	349,840		349,840	33,784	316,056	
共益費	0		0	0	0	
その他	0		0	241,154	△ 241,154	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税	0		0	0	0	
その他()	0		0	0	0	この列は入力しない
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分	0		0	0	0	
当該施設分	0		0	0	0	
二一対対応費	0		0	0	0	
支出合計	29,276,000	0	29,276,000	27,514,132	1,761,868	
差引	0	△ 2,096,398	△ 2,096,398	△ 334,530	△ 1,761,868	

自主事業費収入	660,000			0		予算:指定管理料に含む
自主事業費支出	660,000			242,007		
自主事業収支	0			△ 242,007		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0			0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0			0		使用料(横浜市への支払等)・駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支	0			0		

平成29年度 自主事業収支報告書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

資料4-1

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	自主事業予算額						
		総経費	収入			支出		
			指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
お食事会①	高齢者	71350	地活		71350			71350
	145		包括					
	500		生活					
お食事会②	高齢者	40300	地活		40300			40300
	83		包括					
	500		生活					
はなみずき	高齢者	109300	地活		109300			109300
	230		包括					
	500		生活					
古典文学の会	地域住民	35200	地活		35200			35200
	22		包括					
	1600		生活					
背骨コンディショニング	地域住民	33341	地活	3341	30000		3341	30000
	10		包括					
	30000		生活					
フラワーアレンジメント	地域住民	134500	地活		134500			134500
	66		包括					
	2000		生活					
大人のピース教室	地域住民	36800	地活		36800			36800
	30		包括					
	1200		生活					
さつき食堂	地域住民	62023	地活	11023	25500		11023	25500
	37		包括					
	700		生活					
背骨親子リラックス	地域在住の親子	21182	地活	6682	14500		6682	14500
	8		包括					
	1800		生活					
絵本読み語り	地域住民	12000	地活		12000			12000
	24		包括					
	500		生活					
フレッシュハーブ	地域住民	30023	地活	10023	20000		10023	20000
	20		包括					
	1000		生活					
かるがもランチ	地域在住の親子	15341	地活	3341	12000		3341	12000
	24		包括					
	500		生活					
布ぞうり	地域住民	18000	地活		18000			18000
	14		包括					
	1500		生活					
男の太極拳	男性地域住民	36000	地活		36000			36000
	6		包括					
	6000		生活					
干支人形	地域住民	13027	地活	2227	10800		2227	10800
	10		包括					
	10800		生活					
こそで会	地域住民	36000	地活		36000			36000
	72		包括					
	500		生活					
運協お食事会	地域住民	30000	地活		30000			30000
	15		包括					
	2000		生活					
味噌づくり	地域住民	36000	地活		36000			36000
	18		包括					
	2000		生活					
歌の会	地域住民	6000	地活		6000			6000
	60		包括					
	100		生活					
さつきシネマ	地域住民	1600	地活		1600			1600
	16		包括					
	100		生活					
中国結び	地域住民	71036	地活	11136	59900		11136	59900
	72		包括					
	800		生活					
手作り肉まん(中華館)	地域住民	6713	地活	1113	5600		1113	5600
	7		包括					
	800		生活					
はじめての中国語	地域住民	57181	地活	18381	38800		18381	38800
	8		包括					
	4800		生活					
Bambi English	地域住民(子ども)	57800	地活		57800			57800
	21		包括					
	2500		生活					
リトミック	地域住民(子ども)	104100	地活		104100			104100
	34		包括					
	3000		生活					

平成29年度 自主事業収支報告書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

資料4-2

事業名	①募集対象者 ②募集人数 ③一人当たり参加費	自主事業予算額						
		総経費	収入			支出		
			指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他
親子で脳活性ヨガ	地域在住の親子	12000	地活	12000			12000	
	5		包括					
メープルキッチン	地域住民	54000	地活	54000			54000	
	135		包括					
親子防災教室	地域住民	5341	地活	2000		3341	2000	
	4		包括					
しょうゆこうじワークショップ	地域住民	9720	地活	9170			9170	
	6		包括					
びっくり科学実験教室	地域住民(小学生)	13254	地活	8800		4454	8800	
	22		包括					
ボディーペイント	地域住民(子ども)	2200	地活	2200			2200	
	22		包括					
ベビーマッサージ	地域住民	58454	地活	54000		4454	54000	
	59		包括					
手作り餃子	地域住民	19200	地活	19200			19200	
	24		包括					
朝活体操	地域住民	18796	地活	11000		7796	11000	
	28		包括					
イギリス旅講座	地域住民	8627	地活	6400		2227	6400	
	32		包括					
M'sキッチン	地域住民	10500	地活	10500			10500	
	21		包括					
長江会中国語初級講座	地域住民	24400	地活	24400			24400	
	9		包括					
モップ人形作り	地域住民	1800	地活	1800			1800	
	9		包括					
ひまわりヨガ	地域住民	11000	地活	11000			11000	
	11		包括					
絵手紙	地域住民	6727	地活	4500		2227	4500	
	9		包括					
子供ヨガ	地域住民(子ども)	500	地活	500			500	
	1		包括					
手作りパン	地域住民	61623	地活	51600		10023	51600	
	71		包括					
クリークルスと遊ぼう	地域在住の親子	6682	地活	0		6682		
	50		包括					
ベビーマッサージ	地域住民	58454	地活	54000		4454	54000	
	59		包括					
モール犬	地域住民	28141	地活	24800		3341	24800	
	31		包括					
リズムパンピーノ	地域住民	34541	地活	31200		3341	31200	
	104		包括					
絵本コンサート	地域住民	700	地活	700			700	
	7		包括					
ハーモニカコンサート	地域住民	2227	地活			2227		
	0		包括					
親子体操	地域住民	4454	地活			4454		
	0		包括					
にこにこ茶話会	地域住民(高齢者)	9604	地活	4802			4802	
	90		包括					
			生活					

平成29年度 自主事業収支報告書

横浜市さつきが丘地域ケアプラザ

資料4-3

事業名	①募集対象者	自主事業予算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
介護者の集い	地域住民(高齢者)	938	地活	469				469	
			包括	469				469	
			生活						
認知症カフェ	地域住民(高齢者)	9182	地活						
			包括	9182				9182	
			生活						
筋力トレーニング	地域住民(高齢者)	0	地活						
			包括	116,380				116380	
			生活						
スクエアステップ	地域住民(高齢者)	0	地活						
			包括	8,910				8910	
			生活						